

日本ブラームス協会 第100回 記念例会

Johannes Brahms (1833.5.7-1897.4.3)

oo

● 記念講演 ブラームスと私たち
 ——日本におけるブラームスの音楽の受容について
 顧問 本田脩

● 歌曲 ティークの「マゲローネ」によるロマンスより Op. 33
 それを悔いた者はまだいない、敵に弓矢を、
 悩みか喜びか、愛は遠い国から、
 さわめくがよい泡立つ波よ、まことの愛は永遠に
 Bar. 田中 純 Pf. 小林光裕

● 歌曲 ジプシーの歌 全曲
 Sop. 福原久美 Pf. 小林光裕

● 女声二重唱曲
 愛の道 Op. 20-1 , 海 Op. 20-3 , 出来事 Op. 61-3
 響きⅡ Op. 66-2 , ヴァルプルギスの夜 Op. 75-4
 愛の使者 Op. 61-4
 ブラームス女声合唱団 Sop. 村谷祥子 Alt. 福山恵
 Pf. 吉田由紀子

● ピアノ・ソナタ 第1番 ハ長調 Op. 1
 Pf. 杉谷昭子

● チェロ・ソナタ 第2番 ヘ長調 Op. 99
 Vc. 藤原真理 Pf. 秦はるひ

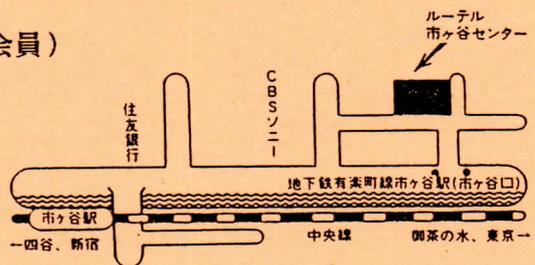
oo

■ 1991・9・22(日) 4pm 開演

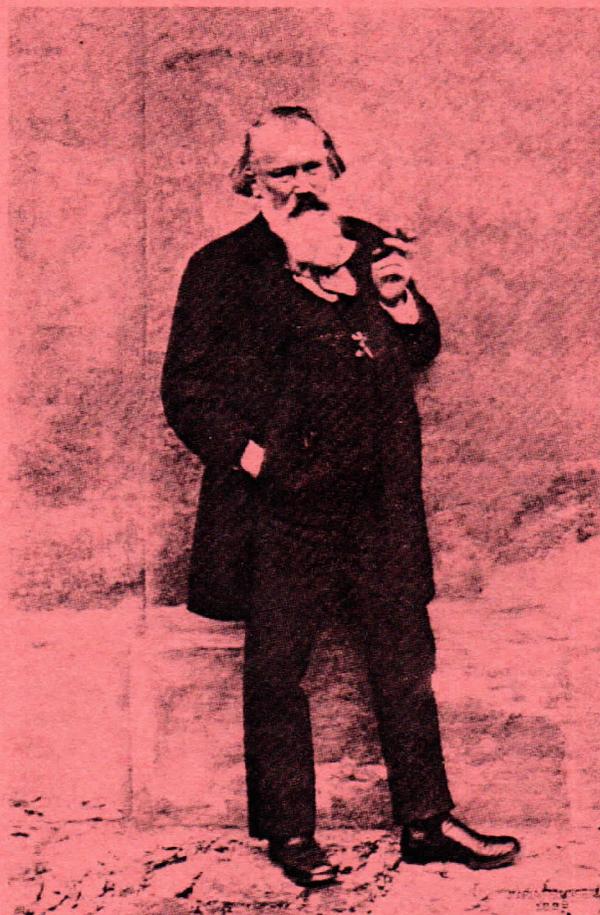
■ ルーテル市ヶ谷センター Tel 03-3260-8621
 (JRまたは地下鉄有楽町線市ヶ谷下車徒歩5分)

■ ¥5000 (一般) ¥3500 (会員)
 ¥3000 (学生会員)

■ お申込みとお問合せ
 Tel 03-3705-3805
 日本ブラームス協会(志賀)



日本ブラームス協会 第100回 記念例会
Japanischer Brahms Gesellschaft Nr. 100 Konzert



NOVEMBER 1893.

1991・9・22(日) 4PM
Sonntag 22.9.1991 16.00 Uhr

東京 ルーテル市ヶ谷センター
Lutherische-Ichigaya-Centre Tokyo

祝 辞 C o n g r a t u l a t i o n s !

For the Japan Brahms Society I wish another "centennial" in the near future. As born myself in Hamburg it is very impressive to observe during the last two decades how much the JBS contributed to the expanding fame of my compatriot Brahms. And as a musician I consider performing Brahms the most important activity to foster the knowledge of his music. Finally as president of the Hamburg Brahms Gesellschaft I want express my great gratitude for your activities under the device of Brahms as for the excellent cooperation with our society.

2. Sept. 1991
Detlef Kraus

日本ブラームス協会がまもなく100回目の例会を迎えることを喜ばしく思います。私自身ハンブルクで生まれたことでもあり、この20年に亘っていかに貴協会が私と同郷のブラームスの名声を広めて来たかを述べるのは誠に感動的であります。そして音楽家の一人として私はブラームスの作品を演奏することが、彼の音楽の知識を助長するために最も重要だと考えています。

最後に、ハンブルク・ブラームス協会の会長として私は、ブラームスの名の下での貴協会の活躍と、わが協会にたいする多大のご協力に深い感謝の意を表すものです。

1991年9月2日

ハンブルク・国際ブラームス協会会長 デトレフ・クラウス

ブラームス — 青春の憧憬

先頃、私は新日本フィルと組んでブラームスの交響曲と協奏曲全曲のシリーズを演奏した。数か月間、ブラームスの音楽の中に浸って、昔ヴァイオリン奏者としてピアノ・トリオを組んで、ベートーベンやブラームスの多くを演奏していた頃の事を想った。

ベートーベンの音楽からは、今も同じであるが恐ろしさにも似た畏敬の念を覚えたが、ブラームスの作品、例えばロ長調 op. 8 の三重奏曲を弾いている時は、若々しい春のように甘美な想いに満たされた。演奏が始まりピアノとチェロが主旋律を奏でヴァイオリンの出を待つ時間は、終る事のない至福の時のようであった。

バッハやベートーベンの手法を極め尽くした壮大なソナタ形式やパッサカリア風の変奏は、もとより偉大な音楽であるが、演奏する自分にとって二短調のピアノ協奏曲の祈りのような第2楽章、第三交響曲3楽章ポコ・アレグレットでの哀しみの歌を奏でるチェロとヴァイオリン、ヴィオラの装飾的な対位が作り出す不協和音の痛切な響きは、演奏が終わった後も幾日も私の耳を去らない。

その師シューマン亡き後、未亡人クララとその家族に渝らぬ誠実と愛を貰った偉大なロマンティカー、ブラームスの姿がそこにある。

以上、簡単ながら日本ブラームス協会の「第100回例会」開催にあたり、私のお祝いの言葉とする。

1991年9月

日本指揮者協会 会長 朝比奈 隆

(注) 当協会名誉会員の三宅正彦氏の旧制東京高等学校時代のご学友である日本指揮者協会会長朝比奈隆様よりお祝辞を頂戴いたしました。

To Members of the J. B. S.

On behalf of the Board of Directors and members of the American Brahms Society, I would like to express to the Japan Brahms Society our heartiest congratulations on the occasion of its 100th concert on 22 September 1991.

Such a milestone concert is truly worthy of celebration, for it serves to remind us of the dedication of your society, over nearly twenty years of sponsoring concerts, to bringing the music of Brahms to your fellow citizens.

We have appreciated the close contact that has developed between our two societies over the years, through our correspondence, the exchange of our publications, and the several members of the JBS who have also joined the ABS.

We wish you a most enjoyable "100th" and many, many more!

15 August 1991
George S. Bozarth
Executive Director, ABS

日本ブラームス協会の皆さんへ

1991年9月22日、日本ブラームス協会が第100回例会を催すにあたり、米国ブラームス協会の理事一同と会員諸君を代表して、心からの祝辞を申し上げます。

この記念碑的な例会は、貴協会が20年近くの間、例会を通じてブラームスの音楽を市民たちに提供するべく貢献してきたことを改めて私たちに示すものであり、まさに祝う価値があるものであります。文通や刊行物の交換により、さらに貴協会の数名の会員が米国のわが協会に入会するなど、長年に亘って二つの協会の間にも育まれて来た親密な関係を常に嬉しく思っています。

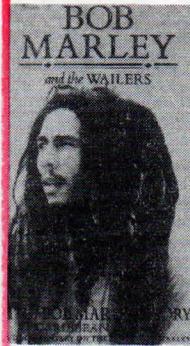
日本ブラームス協会が本当に楽しい「第100回例会」を祝い、そしてさらに数多くの例会を積み重ねて行かれることを期待しています。

1991年8月15日

米国ブラームス協会 専務理事 G. S. ボザース

*このプログラムの表紙:

1893年11月のブラームス(マリア・フェリンガー夫人撮影)。
昨年オーストリアのミュルツツシューラクに復活開館した「オーストリア・ブラームス協会」制作の絵葉書からの転載。



プ・マリーイがザ・ウェイラーズを率いて全盛期の'77年にロンドンで行ったライブ・ビデオであり、彼の絶好調のステージをとらえたものであり文句なしに素晴らしい。ヒット曲「エクソダス」や「アイ・

日本ブラームス協会、第100例会を迎える

来たる9月22日、日本ブラームス協会が第100回の記念例会を行う。会場はルーテル市ヶ谷センター、開演は4時。

当日、記念講演として「ブラームスと私たち——日本におけるブラームスの音楽の受容について」の題で、日本ブラームス協会顧問の本田脩が講演するほか、協会内におけるブラームス演奏の第一人者杉谷昭子による「ピアノ・ソナタ第1番」、藤原真理による「チェロ・ソナタ第2番」、福原久美のソプラノによる「ジプシーの歌」全曲

「マウントフジ」に登場する超目玉新人ゴンサロ・バルカ

マウントフジ・ジャズ・フェスティバルが今年もまた8月23日から3日間行なわれる。'86年に始まった、このフェスティバルは名門ブルーノート・レーベルに結集するミュージシャンを中心に、

ショット・ザ・シェリフ」など13曲が圧倒的なテンションで歌われ、私たちが興奮するつばに叩きこむラストフアリズムを提唱し、政治的闘士としてもカリスマ的存在だったマリーイの偉大さが伝わってくる。そういえば、マリーイの死後、彼の後継者としてシーンを支えたブラック・ウフルのビデオも発売された。こちらも強力な内容だ。レゲエが衰退しないはずだ。(小野好恵)

TOPICS

のほか、「女声二重唱曲」や「ティークのマゲローネによるロマンス」からの曲が演奏される。

ブラームスは、マラーやモーツァルトなどのように華やかな人気が話題をまくことは少ないが、その個性が日本人にとって最も愛されつづけてきた作曲家であることは、間違いない。

第100回を迎えた日本ブラームス協会の着実な活動も、そうした、日本人にとってのブラームスの音楽のあり方を象徴したものと見えるかも知れない。

問合せは、03・3705・3805▼日本ブラームス協会。

JAZZ

現在のジャズ界を代表する大物精英が続々と登場する豪華なイベントとして毎年多くのファンを集めている。

多くのフェスティバルが最近では行なわれているから、大物の登場自体はそれほど珍しいことではないが、このイベントが異なるのは毎年強力な新人をデビューさせることだ。スタンリー・ジョ



静岡市特別企画「モーツァルトメモリアル」

現在静岡市では、長期的な展望に立った文化事業の初事業として、5月からモーツァルトの没後200年記念「モーツァルトメモリアル」を開催している。

この企画は、モーツァルトに関連したコンサート、講演会、面白講座、写真パネル展などで構成されているが、10月以降の主なコンサートを中心に紹介する。

「オーケストラとヴァイオリンの夕べ」(日時・場所)10月17日(木)18時・静岡市民文化会館大ホール(曲目)モーツァルト/交響曲第26番、ヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》(独奏・前橋汀子)、交響曲第41番《ジュピター》(演

ーゲン、ダイアン・リーヴス、O.T.B、ロイ・ハーグロヴ、ロビン・ユーバンクスなどの精英がこのフェスティバルを舞台にして大きくはばたいていった。そして、今年も超目玉新人が登場する。昨秋に日本でレコード・デビューした天才ピアニストのゴンサロ・バルカである。'63年キューバ生

TOPICS

まれのゴンサロは、ここ数年ヨーロッパなどで大きな注目を集めてきた新鋭だが(国交のないアメリカには入国できない)ついに日本上陸を果たす。ゴンサロのピアノは、キース・ジャレットやオスカー・ピーターソンのデビュー時をしのぐ圧倒的なテクニクとスケールの大きさが特色であり、おそらくキース以来の天才児の出現といえるだろう。昨年の第1作「アット・モントルー」も高い評価を得て、今回の来日に先立つて新作「プレッティング」(東芝)がリリースされた。ジャック・ディジョネット、チャリー・ヘイデンという超大物をバックに従え、ゴンサロの天才ぶりが存分に味わえる強力盤だ。(小野好恵)

奏)小泉和裕指揮東京フィルハーモニー交響楽団

「モーツァルト歌曲の夕べ」(日時・場所)10月20日(日)18時半・静岡市役所本館3階大会議室(曲目)すみれ/夕べの想い/さびしい森の中で他(出演)バルバラ・ジュリツクS、クリストフ・プレガルド、エント、マックス・ヴァン・エグモンT、Br他。

「オリジナル楽器によるピアノ協奏曲の夕べ」(日時・場所)12月4日(水)18時半・静岡市民文化会館大ホール(曲目)モーツァルト/ピアノ協奏曲第27番他(出演)ザ・パロックバンド、佐竹由美S、渡邊順生、崎川昌子印

紹介した以外の演奏会、公開レッスン、講演会等の問い合わせは、054・254・2111(静岡市観光課イベント企画室)まで。

シク)では、9月1日から約2か月間にわたってモーツァルトの記念番組を送る。放送時間は毎週日曜夜21時15分(24時)ただし、作品によって終了時刻に変更あり。

9月1日・「フィガロの結婚」(ペーハフランク)

9月15日・「魔笛」(サヴァリッシュ)

9月22日・「魔笛」(バーナー)

9月29日・コンサート「モーツァルトとカラヤン」

10月6日・「愛の女庭師」(ボマー)

10月13日・「イドメネオ」(ハイチンク)

10月20日・「後宮からの逃走」(プロムシユテット)

10月27日・コンサート「モーツァルトへのレクイエム」(ベーム)

テレビ朝日でモーツァルト記念番組

テレビ朝日では、モーツァルト没後200年を記念した「モーツァルト・プロジェクト」として、ドラマ、ドキュメンタリーなどの番組を放送する。

▽「拝啓!モーツァルト様」(10月10日15時)▽「ベルイマンの魔笛」(11月28日24時55分)▽「99歳のモーツァルト弾きホルシヨフスキー」(12月1日14時30分)▽「ミニシリーズ・モーツァルト」(12月2・3日23時30分)▽「朝までモーツァルト」(12月4日25時)▽「ミステリアス・モーツァルト」(12月5日20時)

日本テレビ

●読響オーケストラハウス(第2、4土曜5時45分)

8月24日・「画シヨパン/ピアノ協奏曲第1番ほか」(出演)岡田都京子P

9月14日・「曲ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲」(出演)園友直人、園友スラフ・マトウシエクvn